



和と洋の音楽の「融合」 伝統音楽に宿る精神を伝える

世界に感動を与える力を持つ日本文化を後世に

「二音成仏」という言葉がある。ひとつの音でこの世を表すといった意味で、日本の伝統楽器である尺八の世界において修行の最高目標であるとされる。もともとは虚無僧姿で尺八を吹きながら全国を行脚した普化宗と結びつきの強い言葉として伝えられてきた。彼らにとつて、尺八は見世物としての楽器ではなく、吹くことで悟りに近づこうとする行（吹禅）であり、その精神性を表す言葉として生まれたのだろう。

尺八の構造は非常にシンプルで、竹の根っこの部分を切り取り、中のふしを抜き、5個の穴を開けて、歌口と呼ばれる吹き口を作る程度。竹の形態を活かしているだけに、仕上がりに微妙な差異が生まれる。機械的で洗練された音が求められる西洋の管楽器とは対照的で、キーなど動く部分もない。自然であることを大切にし、欠けたるも余すも無しといった姿も禅の思想に重なる。

そんな尺八に魅了された一人が、米国テキサス州生まれの尺八演奏家、クリストファー・遙盟・ブレイズデル氏だ。早稲田大学に留学中の1972年に尺八に出会い、「とても簡素な作りなのに、出る音が複雑だったことに驚いた。少ない材料で大きな効果を生み出すことに惹かれた」と言う。その後、尺八を本格的に学ぶために再来日し、竹盟社宗家の山口五郎氏に師事、84年に号「遙盟」を授かる。当時、外国人が日本の伝統音楽の世界で生きることは決して易しいことではなかったが、「尺八を学ぶことは、西洋人の自分が日本人を理解するための切り口だった。日本の精神、歴史、

文化を知るための「修行」でもあった」と笑う。

近年、尺八は世界中に多くのファンをもつ日本の伝統音楽のひとつで、その音色を取り入れた楽曲を挙げれば枚挙にいとまがない。クリストファー遙盟氏はその魅力について「尺八に限らず邦楽は非常に音色を大事にする。一音成仏には、ひとつの音のみで曲は完結するという意味もあり、演奏者の精神性が強く表れる音楽と言える。技術力だけでなく、人間性を磨くことも求められるところに日本的な良さを感じる」と語る。

現在、クリストファー遙盟氏は日本音楽研究者としても国際的に活躍、日本の伝統音楽を世界に広める役割も積極的に担っている。2010年にはチェコのプラハで市の支援を受けた尺八のイベントを開催する予定だ。また、「美しい日本の音色を世界と次世代へ」をテーマに活動するブライトワンが企画したコンサートでも、ウィーンフィルの首席で、ソロチェリストを務めるフランツ・バルトロメイ氏（ブライトワン企画・招聘の「ウィーン・ヴィルトゥオーゼン 日本ツアー2009」）に出演。8月号の本欄参照）と数度共演するなど「和と洋の音楽の融合」を体現する。尺八に限ったことではないが、日本の伝統音楽は流派の関係が複雑で、それぞれが作法から演奏方法における細部の差異を非常に大切にきた歴史がある。それゆえ、他流派同士の横の繋がりは薄く、共同公演なども稀で、国内外に対しての情報発信という点では必ずしも上手くいっているとは言えない。そういった中、外国人という立場

を活かして流派を越えた国際的な活動を行っているクリストファー遙盟氏や、各分野の一流演奏家と邦楽家のコラボレーションを手がけるブライトワンのような存在は貴重だ。

伝統文化を守ると一言で言っても難しい。古来より伝わる形を単に再現し続けたからといって後世に伝わるわけでもないし、手を加えすぎれば伝統とは見られないだろう。クリストファー遙盟氏は「大切なのは我々が本当に良いと思えるものを時代に合った形で受け継いでゆくこと。無理をせず「現在進行形」で」と言う。そのためには、誰もが芸術文化に気軽に出会える機会が増え、その本質に自然に触れられるような環境作りをしなければならない。

独立行政法人・国際交流基金の坂戸勝理事は「日本の伝統文化に対する海外の関心は非常に深い。国内に目を向けても、ファッションなどの分野で和のテイストを好む若者が増えてきている。日常生活の中で伝統的なものに触れる機会が増えれば、彼らの中にある「和」がもつと広がっていくのではないかと分析する。若い世代の間で自国の文化を見直す気運が高まりつつある今、伝統芸能に関わる人たちが積極的に「場」を提供していくところを求められていると言えそうだ。

坂戸氏は「伝統文化を支えるのは民間で努力されている多くの方々。我々としては、そういった活動が海外に出やすいようにサポートするのが役目。現場の人たちが、さまざまな工夫をしていくことで文化は発展していくのだと思う」と続ける。

クリストファー遙盟氏も「アーティストが活躍するためには、ブライトワンのように心から文化を愛し、サポートしてくれる支援者の存在が欠かせない」と期待を寄せる。

ブライトワンのたかくさ会長は「伝統音楽をビジネスとして捉えると難しい面は少なくありません。ただ、欧州におけるクラシック音楽のように支援する層が厚くなれば、新しいあり方も見えてくるはず。ブライトワンだけではできないことにも限りがあります。もし共感してくれる方がいれば、一緒に盛り上げていきたい」と呼びかける。

伝統文化が今に残るのは、厳しい修行を経て卓越した技術を身につけた担い手はもちろん、それぞれの時代において良いものを残していこうという人々の関心と支援があったからだ。世界中で多くの人々に感動を与える力を持つ日本の文化を後世に残していけるかは、われわれ一人ひとりの手に委ねられている。

取材・構成／編集部

ウィーン・ヴィルトゥオーゼン
日本ツアー 2009

- 10月10日から18日まで全国7公演。
- 10日 愛知・豊田市コンサートホール
☎ 0565-35-8200
- 12日 東京・サントリーホール
☎ 03-3234-9999
- 13日 仙台・東京エレクトロンホール宮城
☎ 022-217-3955
- 15日 大阪・いづみホール
☎ 06-6944-1188
- 16日 福岡・アクロス福岡シンフォニーホール
☎ 092-414-8306
- 17日 西宮・兵庫県立芸術文化センター
☎ 0798-68-0255
- 18日 岡山・やかげ文化センター
☎ 0866-82-2100

株式会社ブライトワン（招聘、企画、制作、主催）
TEL 03-5485-3801 / FAX 03-5485-3803
<http://www.bright-one.co.jp/wienervirtuosien/top.html>